

ふりがな	の だ え つ こ		※2019年4月21日現在
氏名	野田悦子	年齢	60歳
所属 (政党・会派等)	立憲民主党/市民トライネット	当選回数	1
略歴	泉大津市立 旭小学校卒業 泉大津市立 東陽中学校卒業 大阪府立 泉大津高校卒業 大阪商業大学附属堺経理専門学校 夜間修了 指吸会計グループ/堺計算センター株式会社入社/出産の為退職 竹内信毛織株式会社・光洋キルティング株式会社・ 泉州羊毛工業株式会社へ勤務/立候補の為退職 2015年田中一吉元市議の後継候補として市議会議員となる		

【設問1】 『青少年が夢を持って社会参画できるまち』について、お聞かせください。

※<第4次泉大津市総合計画 施策2>「学びあうひとづくり 彩あるまちづくり」関連

(重要だと思ふテーマ) ※30字以内
誰でも、いつからでも、なりたい自分になれる社会
(自由記述欄) ※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
自身、合格した大学に入学できなかった経験と、学校へ行けなくなった子どもの親の立場を経験しました。現在も家庭の事情で進学を諦めたり、一度も通学する事なく中学校を卒業する児童生徒が、本市にも何人も居ます。『自己責任』の一言で片づけるのは簡単ですが、一人ひとりになりたい自分に近づける。その一歩はいつでも、どのタイミングでも可能な仕組みが必要であると考えます。それは、起業でも同じことが言えます。

【設問2】 『市民とともにつくる災害に強い安全なまち』について、お聞かせください。

※<施策4>「安心で心やすらぐまちづくり」関連

(重要だと思ふテーマ) ※30字以内
災害弱者が安心できる災害対策は、すべての人の安心につながる
(自由記述欄) ※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
私は、この4年間を通して災害弱者の目線に立って自主避難所・避難所・備蓄物資、そして減災には何が必要で、現在足りていないものは何かを考え、訴えてきました。昨年の台風21号では、本市にも大きな被害が出ました。まずは検証であると考えますが、出来ていない、足りない現状があります。小さな脅威に対する検証が、いつかくる大災害のシミュレーションになります。防災士の知識で地区毎のハザードマップ作りを進めたいと思います。

【設問3】 『誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり』について、お聞かせください。

選択テーマ 1: 子ども・子育て支援      2: 地域福祉      3: 高齢者福祉  
 4: 障がい福祉      5: 保健・医療

※&lt;施策3&gt;「誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり」関連

(重要だと思うテーマ)	※選択テーマからお選びいただきご記入ください。
2：地域福祉	
(自由記述欄)	※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
<p>国の福祉財源を抑える施策で、今の社会は地方の事は地方で、住民が出来ることは住民でという方向だと言えます。しかし、現在の自治会加入率は年々減少していて、地域で支え合うはずの仕組みが機能しにくくなっています。杓子定規の行政の押し付けではない柔軟な地域でこそ、災害時の助け合いのみならず、ご高齢の方のご近所同士の支え合いも、子育ても、みんなで楽しみながらできる仕掛けを作れるのではないのでしょうか。</p>	

【設問4】 『人と企業が集まりアイデアと活気にあふれるまち』について、お聞かせください。

選択テーマ 1：地場産業の振興 2：湾岸ベイエリアの活用 3：ICT・AI化の推進  
4：その他

※&lt;施策6&gt;「誇れる・選ばれる・集えるまちづくり」関連

(重要だと思うテーマ)	※選択テーマからお選びいただきご記入ください。 その他の方は30字以下で記入
1：地場産業の振興	
(自由記述欄)	※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
<p>昔は市内のどの辻に入っても、織機のガッチャンガッチャンという音が響いていました。その音が聞こえなくなって久しいですが、今も毛布国内生産日本一は変わりません。その製造過程のノウハウを活かして、毛布が出来るまでツアーと染色原毛を使ったフェルトマフラーの体験を組み合わせたインバウンド対策、ペットや家族写真から作るマット・タペストリーなど隠れた国内需要の掘り起こしを考えた戦略がもっと可能であると考えます。</p>	

【設問5】 あなたが重要だと思う泉大津市における施策テーマについて、お聞かせください。

(任意記載項目)

(重要だと思うテーマ)	※30字以内
真の市民協働	
(自由記述欄)	※そう思う理由、考える施策の方向性等。句読点含め100字以上200字以下
<p>本市は早くから市民協働に取り組んできましたが、市の様々な市民参画会議、パブリックコメントや抽出アンケートにお答えくださった方から、『最初から答えが決まっていなくても変わらない』というような声が聞こえてきます。計画の基礎の段階で、まとまらなくても広くご意見を聞き、中には採用されるご意見があって、それが次もととなり&lt;オラがまち泉大津&gt;との強い気持ちから、まちづくりに繋がるのではないのでしょうか。</p>	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。